

# 子育て世帯 困窮深刻

## 収入、半分以上減が25%

### 公益社団法人 アンケート

#### 公益社団法人「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」は、昨年12月の冬休みに実施した食料支援の利用世帯アンケート結果を発表しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、25%の世帯で収入が半分以上減少、10%の世帯が収入ゼロだと

回答。子育て困窮世帯で深刻な状況が続いていることが分かります。

198世帯にボックスを配布し、アンケートの回答を得ました。

が支払えなかった経験があるとしています。求める支援としては、困窮世帯への現金給付(78%)、児童手当の増額や18歳までの延長(69%)と続きました。

同団体が実施した食料支援事業「冬休み子どもの食応援ボックス」は、18歳までの子どもを扶養する低所得世帯が対象。食料品や日用品などを送りました。同様の支援は2020年5月から5回目です。今回は全国の3

利用世帯の44%がコロナ禍で勤務のシフト減、休業や失業といった影響が出たと回答。58%が「十分な食料を買うお金がない」、63%が「冬休みで給食がなくなるため食費が心配」と答えました。44%が制服代・体操着代

同団体は、多くの子育て世帯が経済的な不安を抱えているとして、「子どもたちが十分な食事をとり、安心して健康的な生活が送れるよう、継続的な食料支援を行う」と強調。子どもの貧困対策充実を「国や自治体へ働きかけていく」としています。

### 食料支援利用者アンケートに寄せられた声

- 【30代女性、子ども＝小学生3人】 経済も戻ってきていると言われているが、実感はない。仕事がなく収入は減ったまま。
- 【20代女性、子ども＝乳幼児、小学生2人】 コロナで職を失い、離婚し母子家庭になった。保育園に空きがなく、仕事もできず収入がない。ミルクもオムツも買えない。児童扶養手当だけではどうにもできない。子どもたちの笑顔がどんどん少なくなったことが一番親として悔しい。
- 【30代女性、子ども＝中学生2人】 コロナの影響で元夫から養育費が振り込まれなくなった。自分の収入だけでは生活できないので、子どもの進学のためにためていたお金を使い生活している。残業を増やして働いたことで体調を崩した。
- 【50代女性、子ども＝高校生】 マスクや衛生用品など買う物が増え、食べていくためのお金が足りなく、学校への支払いもできない。
- 【50代女性、子ども＝中学生2人】 双子が中学生になったが、義務教育なのに制服代や月々の学校納付金がとても高く支払いが苦しい。就学援助では足りない。
- 【40代女性、子ども＝小学生、中学生2人】 長男長女に障害があり目が離せない。土日だけの早朝仕事の面接に行ったが最低賃金以下で悩んでいる。
- 【30代女性、子ども＝中学生、高校生】 コロナでシフトが激減し、収入減で精神的にもまいっています。子どもには周りのお友だちと同じように普通の生活をさせてあげたい。食と衣類は我慢させてしまっているので心が痛みます。